

平成26年度 県立川崎図書館事業体系図及び事業計画

生涯学習機会の提供	(1) 資料収集・整備	ア、資料・情報の収集	(ア) 科学・産業技術関係図書、逐次刊行物(雑誌、年鑑、年報、論文集等)の収集	自然科学、技術・工学、産業、情報科学の事典等の参考図書、最新の知見が書かれた専門図書、基本概説書を収集する。逐次刊行物においては、信頼性の高い最新情報や研究論文を収録する学会誌、協会誌、講演論文集等を収集する。官公庁発行の報告書、企業技報、理工系大学の紀要等を収集する。
			(イ) ビジネス関係資料、特許公報類、規格類等の収集	特許公報関係の解説書及び活用事例に関する図書類、国内外の規格類及び解説書を収集する。ビジネス支援として品質管理等に関する図書も収集する。
			(ウ) 会社史、経済団体史、公社・公団史、労働組合史の収集	会社史・経済団体史は古書も含め、積極的に収集し、社史コレクションの充実に努める。関連する業界史や実業家の伝記の収集にも留意する。
			(エ) 産業安全・労働衛生、ビジネス関連ビデオ・DVDの収集	会社・事業所の研修用として、産業安全・労働衛生・品質管理・環境管理に関するDVDを収集する。
			イ、資料・情報の整備	(ア) 資料の整理、点検、修理、製本
	(2) 資料・情報の提供	ア、基本的サービス	(イ) 資料データの整備	当館の所蔵データベースのKL-NETに加え、CiNii Booksへのデータ登録や各種目録類を整備・公開し、多様な検索手段を提供する。
			(ウ) 資料配置計画及び館内サイン計画の検討・実施	随時図書の書庫入れ作業などを行い、効率的でわかりやすい書架を維持するように努める。館内の掲示等は、利用者の注意を喚起し、端的な表現で視覚に訴えるものを工夫する。
			(エ) 神奈川県関係文献情報ファイルの作成・整備	県立図書館と共同して、神奈川県に関する新聞記事・雑誌論文等を収集し、その索引データをKL-NETに入力して、県民が地域情報を迅速かつ広範に検索・入手できる環境を整える。
			(オ) 科学技術系外国語雑誌デジット・ライブラリーの整備	神奈川県資料室研究会加盟企業等から寄贈された科学技術系外国語雑誌を、横浜市内の野庭収蔵センターに別置き、データを公開して、利用の促進を図る。
			イ、特色あるサービス	(ア) レファレンスサービス
		ア、連携・協力	(イ) 閲覧、登録、貸出(含む視聴覚資料)、リクエストサービス	各カウンターに司書職員を配置し、的確な利用者サービスを実施する。ビジネスユースの利用者のために書庫内資料(特に雑誌のバックナンバー)の大量出納にも応じ、効率的な調査研究を支援する。産業安全関係視聴覚資料は団体貸出を行う。
			(ウ) 複写、在宅利用文献複写、宅配貸出サービス	館内で図書や雑誌の文献複写ができるようコピー機を設置している。郵送による文献の複写や自宅での図書の受け取り等、開館時間内に来館できない県民にも広くサービスを行う。
			(エ) オンラインデータベースサービス	科学技術に関する論文検索のJDreamIIIとCiNii、新聞記事検索の日経テレコン、特許情報検索のJP-NETとIPDLを提供し、利用者自身が検索できる環境を整える。
			(オ) インターネット情報検索サービス	インターネットによる情報検索や文書作成等の利用の便を図る。また、ボランティアグループ「さくらネット川崎」と共催で、初心者向けの「パソコン講習会」を開催する。
			(カ) 障害者サービス	肢体不自由のため来館できない県民のために、図書の郵送貸出しサービスを行う。
		イ、関係団体等業務	(ア) 科学技術情報の提供	科学技術室において、専門的な図書・雑誌を提供するとともに、「サイエンスナウ」「ポピュラーサイエンス」等のコーナー運営を多彩に展開し、科学技術情報の普及に努める。
			(イ) 知財関係情報の提供	特許関係の図書・雑誌の収集を積極的に行う。川崎市とタイアップした「知財スクール」や、「発明相談」等の専門家による相談事業を行い、知財情報の普及に努める。
			(ウ) 社史情報の提供	社史室において、約1万7千冊の会社史を公開している。社史関連講演会の開催や社史の魅力の広報等多面的なサービスを展開する。
			(エ) やさしい科学情報の提供	子供から大人までを対象に理科や科学の入門書や雑誌、情報や技術の実用書を収集している。科学技術への関心を高める展示等の工夫を行う。
			(オ) 行政支援情報の提供	各行政機関からの要請に基づき、図書や文献を提供するサービスを行い、県職員の業務遂行を支援する。
(3) 連携・協力事業	ア、連携・協力	(ア) 科学技術文献相互利用の推進	県内にある試験研究機関との間で、図書や文献を提供するサービスを行い、研究活動を支援する。	
		(イ) 図書館情報ネットワークの推進	県立図書館と協力して、KL-NETを通じた県内市町村立図書館の資料の相互利用を図り、県民サービス向上につなげる。	
		(ウ) 都道府県立図書館等との相互利用の推進	都道府県立図書館等との相互利用を推進し、利用者の利便性の向上を図る。	
		(エ) 県立高校、県内大学図書館との連携、協力の推進	県立高校の図書館や県内の大学図書館などへ資料を提供するなど、教育現場における学習や調査研究のための連携、協力を推進する。	
	イ、関係団体等業務	(ア) 神奈川県資料室研究会の事務局運営、連絡調整	「神資研(しんしけん)」は、県内企業、大学、研究機関のライブラリーや知財部門で構成されている館種を超えたネットワーク。例会の開催や、ニュースと年報の発行をサポートする。	
(4) 広報・普及活動	ア、広報活動	(イ) 知財関係団体等との連絡調整	知的財産の創造、保護及び活用を推進するとともに、中小企業等の知的財産戦略策定の支援を図るために、県内知的財産関係機関が相互に連携を強化する。	
		(ア) 広報企画会議の運営	様々なイベント(展示・講座・サイエンスカフェ・その他)の実施について、年間計画を作成し、企画調整を行う。	
		(イ) 展示の実施	当館所蔵資料と自作パネルや他からの借用物と組み合わせて、年間4回の展示を開催する。時宜に合うテーマを選び、当館の魅力発信の場として位置づける。展示後、可能なものは県内市町村図書館にも貸し出しを行う。	
	イ、講座等開催事業	(ウ) 図書館実習等の受入れ、見学者への対応	図書館を身近に感じ、理解を深める手段として、図書館学専攻の学生の実習、高校生・中学生の職業体験や見学希望も積極的に受け入れる。	
		(エ) ホームページの運営	展示や講演会などのイベントの案内や報告、図書館での出来事など、有益な広報の手段としてホームページを活用する。「司書の番(ブログ風の記事)」「クリッピング!(写真で見る図書館)」など、生き生きとした情報発信に心がける。	
(5) 図書館運営の条件整備	ウ、刊行物の発行	(ア) 展示関連イベントの開催	展示を当館の広報の中心と考え、展示に合わせて講演会等も開催し、重層的な「知」の機会を提供する。	
		(イ) サイエンスカフェの開催	平成18年度から開催を続け、気軽に科学技術の専門家と語り合える場として人気のイベントである。今年度も県内の試験研究機関等の研究員を講師に迎え、3回程度の開催を予定している。	
		(ウ) その他各種イベントの開催	資料の調べ方講座、図書館探検ツアー、「文字活字文化の日」講演会、「社史ができるまで」シリーズ講演会、ビジネス支援トーク、科学実験教室、夏休み科学映画会、等々魅力的なイベントを開催していく。	
		(ア) 館報「科学EYES」の刊行	当館の館報として、科学技術系と自然科学系にテーマを分け、年2回刊行する。専門家に論文執筆を依頼し、合わせて当館の文献目録を作成し、来館者、県内公共・大学図書館や全国の都道府県立図書館等に配布する。	
		(イ) 「テーマ別文献目録」の刊行	新しい科学技術に関するテーマを選び、所蔵する図書や雑誌論文を集めた「テーマ別文献目録」を年2回編集発行する。話題性のある事項に関しては、随時速報版も発行し、ホームページからも発信する。	
ア、運営状況の点検・評価	(ウ) その他定期刊行物の発行	SiL(科学と産業の情報ライブラリーニュース)を年4回、社史室の広報誌である「社楽」を毎月、「やさしい科学しんぶん」を年2回発行する。		
	(ア) 図書館アドバイザーレクチャー制度の運営	両図書館の長が有識者からアドバイスを受けることを目的として、県立図書館が企画、実施しているが、両館共通のテーマ設定、ふさわしい講師の選定などに協力し、職員の研修機会としても機能させる。		
	(イ) 県民意見を聞く会の開催	直接県民の意見を聞く機会を設け、よりよい県立図書館のあり方を県民とともに考える場を設定する。県立図書館とともにその開催方法を検討し、実施していく。		
	(ウ) 活動評価の実施、公表	平成26年度は前年度と同一の5指標(データベース利用者数・テーマによる展示回数・利用者向けイベントの参加者数・ホームページコンテンツの新規作成数・メディア掲載件数)に加え「新規資料寄贈数」の6指標で数値目標を設定したうえで評価を行い、「計画→実施→評価」の持続的な運営		
	(エ) 利用調査の実施	「統計」数値の確認に加え、利用実態の把握のために、きめ細かい利用調査を実施し、その結果を分析して、今後のサービスに活かす。		
イ、施設の整備	(オ) 職員の研修	第二木曜日の館内整理日を活用して、司書職員の資質向上のための研修機会を設ける。県図書館協会の研修をはじめ、各種研修に積極的に参加し、その成果を共有して、全職員のレベルアップにつなげ、利用者の満足度向上を図る。		
	(カ) 職員の研究と発信	情報の専門職として司書職員のスキルアップの活動を支援し、研修講師、図書館の紀要や学会誌への論文の投稿や、研究成果の発表・発信に結実させ、川崎図書館職員全体の能力向上を図る。		
	(ア) 施設の管理、維持修繕、備品整備	図書館として必要な施設の維持管理を行い、施設設備等の不具合が生じた際には適宜現状復帰を図るとともに、利用者にとって快適な施設環境を提供するための施設設備の整備を行う。県立川崎図書館の財産の適正な維持及び業務の運用に係る効率的な経費の執行を行う。		
	(イ) ISO 14001の推進	ISO14001の規格に適合していることを自ら宣言するという「自己適合宣言」のもとで、環境問題への対応を進めるため、法令等を遵守し、継続的に改善しながら環境への配慮を行う。		